

アニマルサイエンス学科「フレッシューズキャンプ」のアンケート調査

山藤 実（帝京科学大学 環境教育・インタープリテーション研究室）

指導：古瀬浩史

キーワード：アニマルサイエンス学科、フレッシューズキャンプ、アンケート調査

1. はじめに

本学アニマルサイエンス学科東京西キャンパスでは平成 26 年度より、全新生を対象にした宿泊型研修「フレッシューズキャンプ（以下 FC）」を実施し始めた。FC を立ち上げから担当した今野は、LINE や Twitter などの SNS の登場によりネット上で容易に友人とつながることができるようになる一方、新しい人間関係を構築することを苦手としている学生が多いと推察し、それらに対する大学の対策として FC を位置づけた¹⁾。

FC では、参加者を対象にした事後アンケートが行われていたが、平成 29 年度以降については集計や解析が行われていなかった。そのことにより期待や満足などが評価されておらず、アンケート結果が FC の企画に活かせていなかった。また平成 30 年度より日帰りになったことがどのように影響しているかなどが検討できていなかった。

そこで本研究では、平成 29 年度（1泊2日）と平成 30 年度（日帰り）に行われた FC の事後アンケートを集計、解析し、参加者の期待や満足、感想などについて、特に 1泊2日と日帰りの違いについて考察する。それらを通じて今後の FC 計画に有益な情報を提供することを目的として研究を行った。

2. FC の特徴

① 目的

FC の目的は、学科での企画資料では「入学直後の新生が、レクリエーションやグループワーク活動を通して、同級生や上級生、教員と親睦を深め、コミュニケーションの活発化を図り、大学生活を円滑に過ごすためのステップとなる機会にする」とされている。今野は、「目的を『顔見知り作り』に絞った」としている¹⁾。

②企画運営体制

平成 29 年度は 3 年生と教員によって企画・運営が行われた。学生スタッフの募集は 2 年生のコミュニケーション実習の時間に呼びかけが行われた。平成 30 年は教員の担当者が変わったことから、環境教育・インタープリテーション研究室的な学生および公募された 3、4 年によって企画・運営された。

3. 方法

平成 29 年度と平成 30 年度の事後アンケートを検討した。アンケートは、FC 終了後の別日に行われた基礎ゼミの講義の際に行われた。アンケートの検討項目は以下の通りである。

<平成 29 年度と平成 30 年度共通のアンケート項目>

Q1, キャンプ行く前はどのような気持ちでしたか

(大変楽しみだった・楽しみだった・あまり行きたくなかった・全く行きたくなかった)

Q2, 今回のキャンプを参加してみてどうでしたか

(とても満足した・満足した・少し不満である・とても不満である) +自由記述

Q3, 今回のキャンプで知り合いはできましたか? 大まかな人数も教えてください。

(たくさんできた・少しできた・全くできなかった) +人数

Q4, 来年 FC が行われる場合、学生スタッフとして参加したいですか?

(とても思う・少し思う・あまり思わない・全く思わない)

+自由記述

Q5, FC は今後も続けた方がいいと思いますか?

(とても思う・少し思う・あまり思わない・全く思わない)

+自由記述

Q6, FC の今後のために、意見・感想・改善点を詳しく書いてください。(自由記述)

<平成 30 年度のみ行われたアンケート内容>

Q7, 本学に合格後、入学式より以前に SNS (Twitter や Facebook、LINE 等) の検索機能を使って、同級生となる人と新たな繋がりをつくる (フォロー等) ことを行いましたか?

(はい・いいえ) +人数

Q8FC を機会に、SNS (Twitter や Facebook、LINE 等) での繋がりがつくり (フォローやアカウント交換等) を行いましたか?

(はい・いいえ) (Twitter、Facebook、LINE、その他から選択して人数を記入)

4. アンケート調査の集計結果

平成 29 年度のアンケート結果の集計については、「資料 1」にまとめた。

5. アンケート調査の結果・考察

アンケート Q1、Q2、Q4、Q5 までの 4 段階の回答を、2 段階に集計し直し、 χ^2 乗検定を行い結果を考察した。

(1)FC への期待

FC の参加前に、どの程度期待していたか (Q1) について年度で比較した表を表 1 にまとめた。

表 1. 「期待」の年度での比較

	期待している	期待していない	合計
平成 29 年度	84	70	154
平成 30 年度	113	49	162

※有意差あり (P<0.01)

平成 29 年度に比べると、平成 30 年度は、「期待している」の回答が多かった。次に、それぞれの年度で男女による違いを検討した(表-2, 表-3)。

表-2. 「期待」の平成 29 年度での男女差

	期待している	期待していない	合計
男子	53	29	82
女子	31	41	72

※有意差あり (P<0.01)

表-3. 「期待」の平成 30 年度での男女差

	期待している	期待していない	合計
男子	47	20	67
女子	66	29	95

平成 29 年度では男子は「期待している」が多かったが女子は「期待していない」が多かった。平成 30 年度では男女ともに「期待している」が多かった。特に女子は日帰りの場合「期待している」が高くなる傾向が顕著にみられた。

(2)FC の満足

FC の内容がどの程度満足したか(Q2)についての回答について年度で比較した表を表-4 にまとめた。

表-4. 「満足」の年度差

	満足	不満	合計
平成 29 年度	147	7	154
平成 30 年度	157	5	162

両年度とも「満足した」と回答した人が多かった。しかし、「不満」と回答している人も少数ながらいいた。「満足」に関する自由記述では平成 29 年度では「友達ができた」が 71 件で一番多く、「顔見知りができた」が 42 件で二番目に多かった。しかし、平成 30 年度では「友達ができた」が 52 件で減っており、一番多かったのは「顔見知りが増えた」のが 68 件だった。

平成 29 年度では、女子の「期待」は男子より低かったが、「満足」は、男子を上回っていた(図-1)。

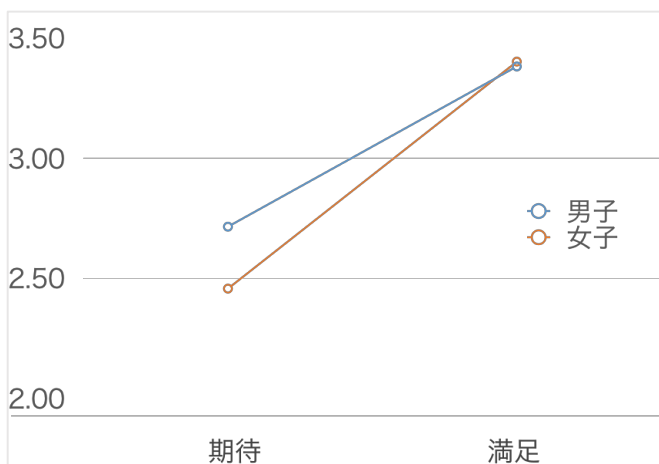


図-1. 平成 29 年度男女の「期待」から「満足」の変化

(3)FC を通して知り合いができたか

FC を通してどの程度の知り合いができたかについて図-2 にまと

めた。

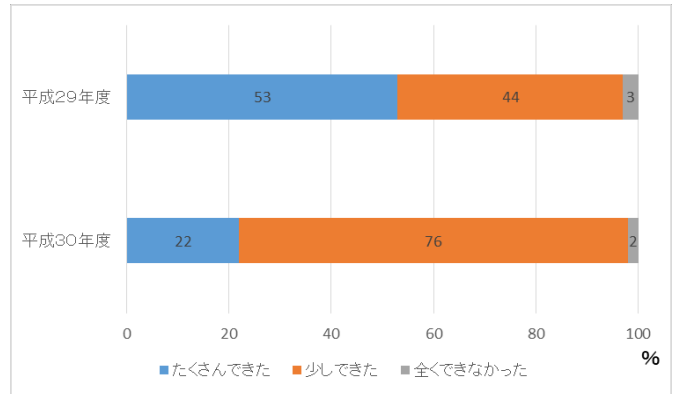


図-2. FC を通して知り合いができたか

平成 29 年度の「たくさんできた」の回答は平成 30 年度の 2 倍以上あった。しかし、「全くできなかった」という回答は変わりがなかった。「できた知り合いの人数」について、外れ値を算出し極端な数字を除いた平均値では平成 29 年度は 11.9 人、平成 30 年度は 4.7 人だった。

(4) 学生スタッフ参加したいか

今後学生スタッフとして参加したいと思っているかについて表-5 にまとめた。

表-5. 学生スタッフとして参加したいかの年度比較

	参加したい	参加したくない	合計
平成 29 年度	61	89	150
平成 30 年度	89	73	162

※有意差あり (P<0.03)

1泊2日の場合「参加したくない」の方が多く、日帰りの場合は逆に「参加したい」の方が多くなっていた。そこで、同項目についての男女差を検討した(表-6, 表-7)。

表-6. 学生スタッフとして参加したいか:男女の比較(平成 29 年度)

	参加したい	参加したくない	合計
男子	32	46	78
女子	29	43	72

表-7. 学生スタッフとして参加したいか:男女の比較(平成 30 年度)

	参加したい	参加したくない	合計
男子	29	38	67
女子	60	35	95

※有意差あり (P<0.03)

男子は年度による差はあまりなく、両年度とも「参加したくない」が多かった。しかし、女子では日帰りの場合(平成 30 年度)に「参加したい」という回答が多くなった。これらのことから、女子は宿泊を伴うイベントに対する抵抗感が大きいことが推察される。

「学生スタッフとして参加したいか?」の自由記述で、「参加したい」と回答した人のコメントでは「友達ができるか不安な人を手助けしたい」や「このイベントをやってもらって嬉しかったから後輩にやってあげたいと思った」などが挙げられた。「参加したくない」

と回答した人のコメントでは「説明など人前で話すのが苦手だから」などが挙げられた。

(5) 今後も FC を続けた方が良いと思うか

今後も FC を続けた方が良いと思うかについての回答を表-8 にまとめた。

表-8. 今後も FC を続けた方が良いと思うか：年度差の比較

	とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
平成 29 年度	118	24	3	1
平成 30 年度	125	37	0	0

両年度とも「続けた方が良い」と思うという回答が多かった。平成 29 年度に「思わない」という回答が少数ながらいた。その少数の回答の自由記述では「家が恋しい」や「お金の問題」、「このイベントがなくても友達ができる」などの意見があった。

(6) 「期待」が低い人の変化

平成 29 年度において、「期待」が低かった参加者が、「満足」でどのように回答したかを整理し、表-9 に示す。

表-9. 平成 29 年度「期待」が低い人の「満足」の回答

全く行きたくなかった		行きたくなかった	
6 人		63 人	
「満足」の回答		「満足」の回答	
とても満足	1 人	とても満足	20 人
満足	4 人	満足	40 人
少し不満	1 人	少し不満	3 人
とても不満	0 人	とても不満	0 人

平成 29 年度では「全く行きたくなかった」と回答した参加者は 6 人、「行きたくなかった」と回答した参加者は 63 人いた。しかし、表-9 より多くの「期待」が低い参加者は、「満足」では「とても満足」もしくは「満足」と回答していた。

平成 30 年度の「期待」が低かった参加者の「満足」がどのように変化したかを表-10 に示す。H30 年度でも同様に多くの参加者が「満足」と回答していた。

表-10. 平成 30 年度「期待」が低い人の「満足」の回答

全く行きたくなかった		行きたくなかった	
8 人		41 人	
「満足」の回答		「満足」の回答	
とても満足	4 人	とても満足	9 人
満足	2 人	満足	30 人
少し不満	2 人	少し不満	2 人
とても不満	0 人	とても不満	0 人

(7) 「期待」と「満足」がともに低い人の検討

「期待」と「満足」のアンケート項目の両方とも低く回答した参加者について表-11 と表-12 に整理した。

平成 29 年度に 4 人、平成 30 年度に 4 人該当者がいた。両年度とも「期待」と「満足」が低い参加者は「できた知り合いの人数」が

少なく、平成 29 年度では自由記述に「友達ができなかった」と記入した参加者が 2 名いた。平成 30 年度では「楽しいより忙しかった」や「一方的な会話がなかった」など時間の面や企画の面が挙げられた。

表-11. 平成 30 年度「期待」かつ「満足」が低い参加者について

性別	期待 ※1	満足 ※2	知り合いの できた人数	今後 やるか ※3	満足の自由記述
男	2	2	1 人	1	特になし
男	2	2	回答なし	1	仲のいい友達ができなかった
女	2	2	回答なし	3	雨とかもあり面倒くさかった
女	2	1	4 人	3	対して友達ができなかった

表-12. 平成 30 年度「期待」かつ「満足」が低い参加者について

性別	期待 ※1	満足 ※2	知り合いの できた人数	今後 やるか ※3	満足の自由記述
男	2	2	1 人	3	楽しいより忙しかった
男	2	2	回答なし	3	たくさんの人に話しかけたが一方的な会話が多くて私的にはつまらなかった
男	1	2	0 人	3	不安な気持ちでキャンプするのが嫌だった
女	1	2	2 人	3	寒いのが長かった

※1 (大変楽しみだった:4・楽しみだった:3・あまり行きたくなかった:2・全く行きたくなかった:1)

※2 (とても満足した:4・満足した:3・少し不満である:2・とても不満である:1)

※3 (とても思う:4・少し思う:3・あまり思わない:2・全く思わない:1)

6. 考察および今後の FC 計画への提案

アンケートでの「満足」が高いことなどから、FC は継続されることが望まれる。「満足」の自由記述や、「できた知り合いの人数」の結果から、日帰りより 1 泊 2 日の方が顔見知りや友達が多く作られていた。しかし、特に女子において、1 泊 2 日かの設定で「期待」や「スタッフ参加の希望」が低くなる顕著な傾向がみられ、この点は 1 泊 2 日の設定のマイナス面だと言える。今後の FC を 1 泊 2 日又は日帰りどちらで行うについては双方のプラス面、マイナス面を踏まえて検討する必要がある。交流の促進の意味では 1 泊 2 日が望まれる。

コミュニケーションが苦手と思われる参加者が各年度に一定数いることから、それらに配慮してプログラムを作る事が必要だと考えられる。「顔見知り」だけではなく、より関係性を深める「友達」作りの機会の提供できる、協力するプログラムなどが必要とされているかもしれない。

FC を機会に、SNS での繋がりづくりを行ったかについては 80% の人は「はい」と回答していた。そして使われた SNS サービスでは LINE が最も多く、123 人が利用していた。多くの人が SNS を活用していることがわかり、FC の中でも SNS による交流をプログラムとして扱うことも考えられる。しかし、SNS は直接的なコミュニケーションを逆に阻害する可能性も考えられるため注意深く検討する必要があると

考える。

7. 参考文献

- 1) 今野 直人ほか：アニマルサイエンス学科における新入生宿泊型研修「A-FC」の設計と実施：帝京科学大学紀要 第13巻, 2017

8. 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導を頂いた指導教員の古瀬浩史教授、アンケート調査にご協力頂いた平成 29 年度と平成 30 年度アニマルサイエンス学科の新入生の皆様、同研究室の皆様に感謝いたします。

資料 1

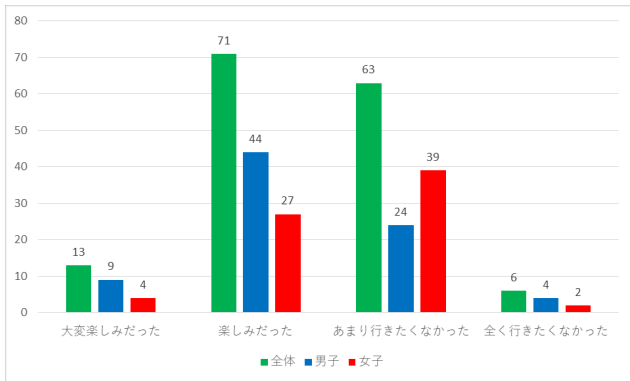


図-3. 平成 29 年度「キャンプへの期待 (Q1)」

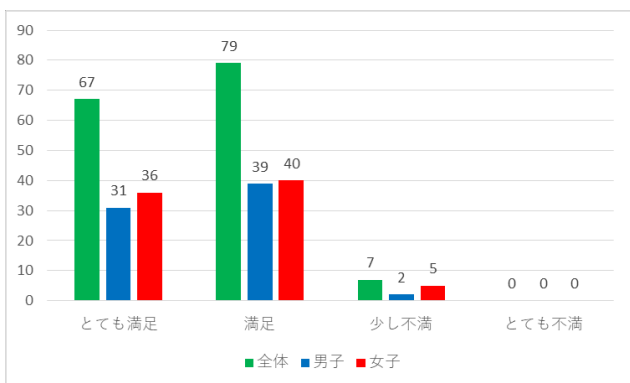


図-4. 平成 29 年度「キャンプの満足 (Q2)」

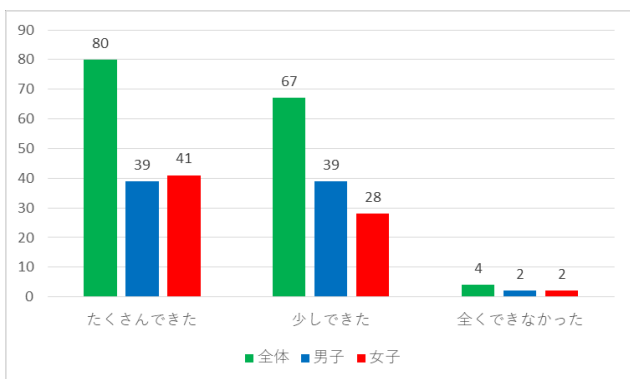


図-5. 平成 29 年度「どの程度知り合いができたか(Q3)」

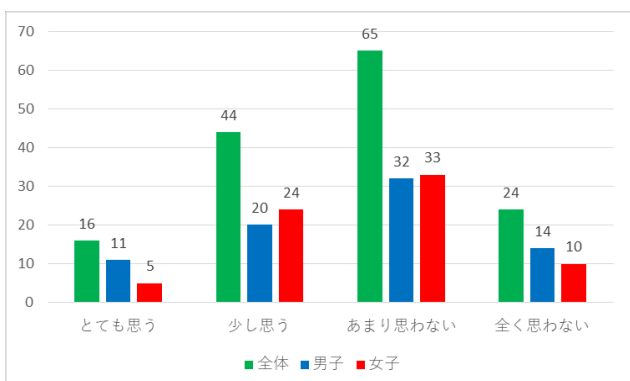


図-6. 平成 29 年度「学生スタッフとして参加したいか(Q4)」

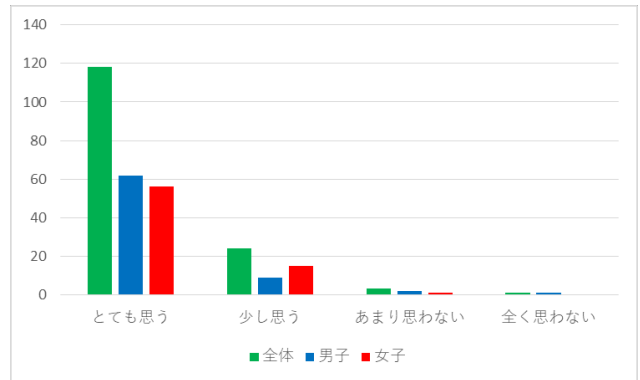


図-7. 平成 29 年度「FC を今後も続けた方が良いか(Q5)」

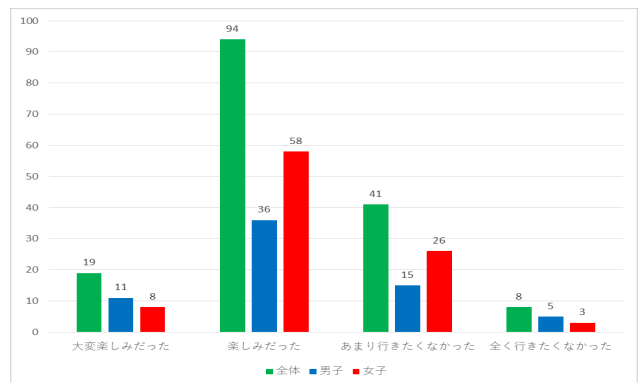


図-8. 平成 30 年度「キャンプへの期待 (Q1)」

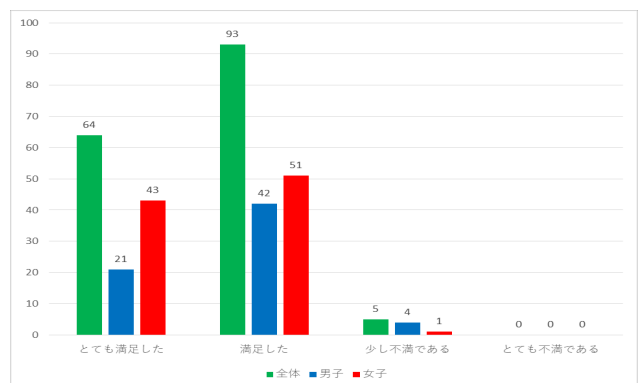


図-9. 平成 30 年度「キャンプの満足 (Q2)」

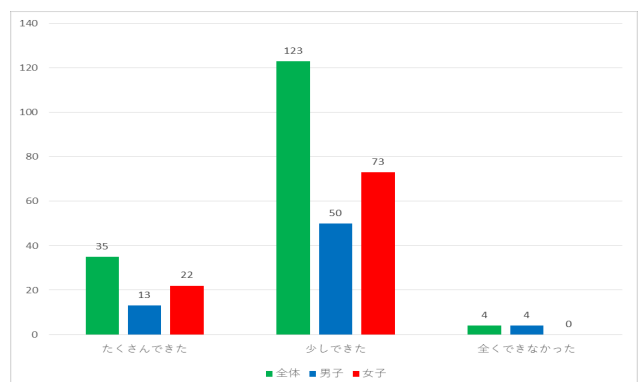


図-10. 平成 30 年度「どの程度知り合いができたか(Q3)」

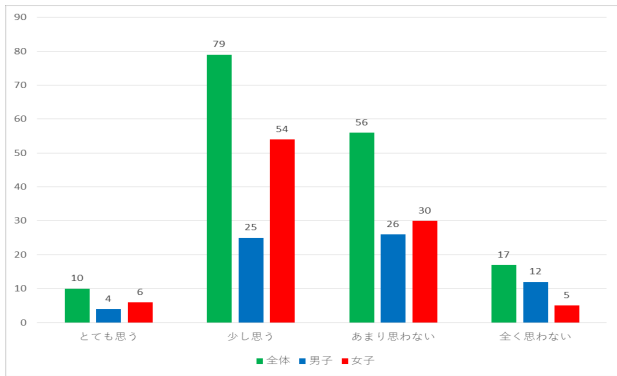


図-11. 平成 30 年度「学生スタッフとして参加したいか(Q4)」

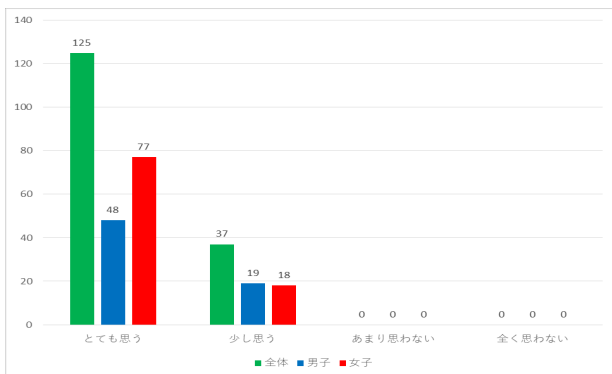


図-12. 平成 30 年度「FC を今後も続けた方が良いか(Q5)」

平成 30 年度のみ質問した設問項目 Q7 および Q8 の結果を図-13、図-14 に示す。

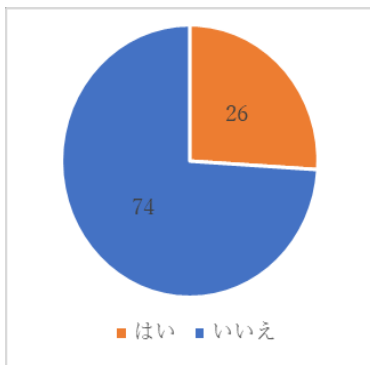


図-13. 「入学式以前に SNS で同級生となる人と交流を行ったか(Q7)」

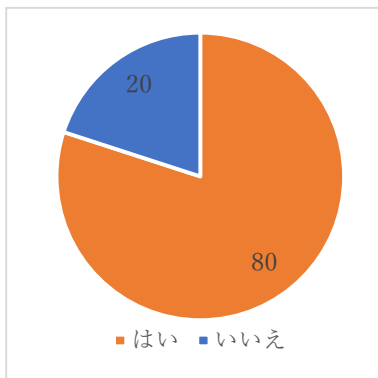


図-14. 「FC を機会に SNS の交流を行ったか(Q8)」